

[資 料]

「子どものからだの調査 2000」の結果報告

阿部 茂明\*・野井 真吾\*\*・野田 耕\*\*\*

平井 貴子\*\*\*\*・正木 健雄\*\*\*\*\*

(平成 13 年 10 月 31 日受付, 平成 13 年 11 月 27 日受理)

**A Report on the Results of a Questionnaire on the Teachers' or the Yogokyoyus' Feeling According to the "Abnormalities" in Physical Function on the Japanese Children and the Youth in 2000**

Shigeaki ABE, Shingo NOI, Koh NODA, Takako HIRAI and Takeo MASAKI

We continued investigating the "actual feeling" about "abnormalities in physical function" of children by the teacher or yogokyoyu in the spot of childcare/education in an interval about 5 years from 1978.

This project was enforced because the last research was before just 5 years.

Numbers of question were 44 items for preschool/kindergarten, 59 items for elementary/junior high/high school.

Numbers of question for preschool/kindergarten were 44 items. The other, those for elementary/junior high/high school were 59 items.

Subjects were 2,808 teachers and/or yogokyoyus (collection rate: 48.4%).

The results were summarized as follows.

1) It was expected that the progress of "abnormalities in physical function" of children were not being stopped.

2) The substance of "abnormalities in physical function" was concluded with the "disorders of physical function" and the "developmental disorders of physical function".

3) It was confirmed that more repletion of function in "health room" was hoped.

4) Thus, we proposed the necessity of practice based on scientific hypothesis, the necessity of the promotion on the study in children's physical function, and information exchange of results of practice and/or study.

**Key words:** Child, "Abnormalities in physical function", Actual feeling, Disorders of physical function, Developmental disorders of physical function

**キーワード:** 子ども, からだのおかしさ, 実感調査, からだの不調, からだの発達不全

1. 目 的

われわれは, 子どものからだのおかしさについて, 保育や教育の現場で実感されていることを 1978 年からほぼ 5 年ごとに調査をしてきた。このような実感について調査した結果は, 子どものからだの変化をとらえるのに有効であり, 見当違いの

対策を正し, からだの変化にかみ合った適切な対策を立てるのに非常に役に立ったと, われわれは考えている。

前回 (1995 年) の調査からすでに 5 年を経過し, 定時調査の時期になったので, 子どものからだのおかしさが現在どのように推移しているのかを明らかに

\* 学校体育研究室, \*\* 大学院博士後期課程, \*\*\* 上智大学, \*\*\*\* 日本女子大学附属高等学校,

\*\*\*\*\* 大学院

にするため、現場での実感について継続調査を行うことを本調査の目的とした。

## 2. 方 法

### 2.1 実感調査の項目

「子どものからだの調査'95」における回答率の状況とその後の子どものからだの問題状況とを考慮して、乳幼児用調査では2項目（「保育中、じっとしていない子」、「異常と思われる痩身（やせ）の子」）をふやして44項目とし、また児童・生徒用調査では4項目（「授業中、じっとしていない子」、「なんとなく保健室にくる子」、「異常と思われる痩身（やせ）の子」、「保健室登校の子」）をふやして59項目とした。調査内容はこれまでの調査と同様、以下の4群に分けた。

- 1) からだの活動性
- 2) からだの防御性
- 3) 直立姿勢や動作
- 4) 疾病・けが、その他

### 2.2 調査の方法

都道府県ごとに系統抽出した対象所・園ならびに学校に対して調査用紙を郵送し、現場での実感に基づいて、“最近増えている”，“変わらない”，“減っている”，“いない”，“わからない”を選択回答してもらい、郵送により回収した。

### 2.3 調査対象数と回収数ならびに回収率

	対象数	回収 (有効回答) 数	回収率 (%)
保 育 所	386	154	39.9
幼 稚 園	387	162	41.9
小 学 校	1,187	601	50.6
中 学 校	537	274	51.0
高等学校	308	167	54.2
合 計	2,808	1,358	48.4

### 2.4 調査期間 2000年1月11日～3月17日

## 3. 調 査 結 果

3.1 本調査の結果は、結果1～5に示したとおりである。

3.2 回収されたアンケートで「からだのおかしさ」が“最近ふえている”と回答したものが多い順に、上位10項目をワースト・10として示し、全国的に比較できる過去の調査（1978年あるいは1979

年、1990年、1995年）結果と対応させて示したのが表1である。

今回の調査では、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校のどの段階でも、ワースト1,2位に、「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という」の項目が並んだ。

また、ワースト・10内で保育所と幼稚園で共通していない項目は、保育所での「そしゃく力が弱い」と「すぐ疲れて歩けない」、幼稚園での「転んで手が出ない」と「腹痛・頭痛を訴える」であった。

小・中学校ならびに高校段階においてワースト・10内で共通する項目は、先にあげた「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という」に「平熱36度未満」が加わり、3項目であった。

ワースト・10内で小・中学校で共通する項目は、「歯並びが悪い」と「視力が低い」の2項目であった。

ワースト・10内で中学・高校で共通する項目は、「首、肩のこり」、「不登校」、「腰痛」、それと「なんとなく保健室にくる」の4項目であった。

小学・高校で共通する項目は、「皮膚がかさかさ」、「症状説明できない」の2項目であった。

3.3 今回の調査で新たに加えた項目の回答状況は、以下のとおりであった。

Q3 「保育中じっとしていない」	保	6 位	60.3%
	幼	6 位	58.9%
Q4 「授業中じっとしていない」	小	3 位	77.5%
	中	14 位	56.4%
	高	16 位	50.3%
Q6 「なんとなく保健室にくる」	小	12 位	54.8%
	中	7 位	71.8%
	高	9 位	65.7%
Q34/37 「異常と思われるヤセ」	保	40 位	6.0%
	幼	42 位	3.2%
	小	45 位	15.0%
	中	33 位	27.5%
	高	20 位	36.7%

〈保育所〉

(0/0)

1979 年		1990 年		1995 年		2000 年	
1. むし歯	24.2	1. アレルギー	79.9	1. アレルギー	87.5	1. すぐ「疲れた」 という	76.6
2. 背中ぐにゃ	11.3	2. 皮膚がカサカサ	76.4	2. 皮膚がカサカサ	81.3	2. アレルギー	76.0
3. すぐ「疲れた」 という	10.5	3. 背中ぐにゃ	67.7	3. すぐ「疲れた」 という	76.6	3. 皮膚がカサカサ	73.4
4. 朝からあくび	8.1	4. すぐ「疲れた」 という	63.3	4. そしゃく力が 弱い	71.9	4. 背中ぐにゃ	72.7
5. 指吸い	7.2	5. そしゃく力が 弱い	59.4	5. 背中ぐにゃ	70.3	5. そしゃく力が 弱い	64.3
6. 転んで手が 出ない	7.0	6. ぜんそく	53.7	6. つまずいて よく転ぶ	54.7	6. ぜんそく	61.0
7. アレルギー	5.4	7. つまずいて よく転ぶ	52.4	6. ぜんそく	54.7	7. 保育中、じっと していない	60.4
8. つまずいて よく転ぶ	4.9	8. 転んで手が 出ない	48.0	8. すぐ疲れて 歩けない	51.6	8. つまずいて よく転ぶ	58.4
9. 保育中目がトロン	4.8	9. 指吸い	43.7	8. 朝からあくび	51.6	9. 朝からあくび	53.2
10. 鼻 血	4.6	10. 朝からあくび	43.2	10. 転んで手が 出ない	48.4	9. すぐ疲れて 歩けない	53.2

〈幼稚園〉

(%)

1990 年		1995 年		2000 年	
1. アレルギー	72.3	1. アレルギー	74.8	1. アレルギー	82.7
2. 皮膚がカサカサ	68.0	2. すぐ「疲れた」という	73.9	2. すぐ「疲れた」という	76.5
3. すぐ「疲れた」という	57.8	3. 皮膚がカサカサ	68.7	3. 皮膚がカサカサ	69.1
4. ぜんそく	54.9	4. 背中ぐにゃ	56.5	4. ぜんそく	67.3
5. 背中ぐにゃ	53.4	5. ぜんそく	53.0	5. 背中ぐにゃ	66.0
6. 腹痛・頭痛を訴える	41.7	6. つまずいてよく転ぶ	52.2	6. 保育中, じっとしていない	59.3
7. 転んで手が出ない	41.3	7. 朝からあくび	47.0	7. 転んで手が出ない	53.7
7. つまずいてよく転ぶ	41.3	7. すぐ疲れて歩けない	47.0	8. つまずいてよく転ぶ	49.4
9. 朝からあくび	40.3	9. 転んで手が出ない	43.5	9. 腹痛・頭痛を訴える	48.8
10. 棒登りで足うらを使えない	39.3	10. 腹痛・頭痛を訴える	41.7	10. 朝からあくび	47.5
		10. そしゃく力が弱い	41.7		

〈小学校〉

(%)

1978 年		1990 年		1995 年		2000 年	
1. 背中ぐにゃ	44	1. アレルギー	87.3	1. アレルギー	88.0	1. アレルギー	82.2
2. 朝からあくび	31	2. 皮膚がカサカサ	72.6	2. すぐ「疲れた」 という	77.6	2. すぐ「疲れた」 という	79.4
3. アレルギー	26	3. すぐ「疲れた」 という	71.6	3. 視力が低い	76.6	3. 授業中、じっと していない	77.5
4. 背筋がおかしい	23	4. 歯ならびが悪い	69.9	4. 皮膚がカサカサ	71.4	4. 背中ぐにゃ	74.5
5. 朝礼でボタン	22	5. 視力が低い	68.9	5. 歯ならびが悪い	70.8	5. 歯ならびが悪い	73.2
6. 雑巾がしぼれない	20	6. 背中ぐにゃ	68.7	6. 背中ぐにゃ	69.3	6. 視力が低い	71.7
6. 転んで手が出ない	20	7. 腹痛・頭痛を 訴える	65.5	7. 腹痛・頭痛を 訴える	66.7	7. 皮膚がカサカサ	67.4
8. なんでもない時 骨折	19	8. 転んで手が 出ない	62.3	8. 症状説明でき ない	63.5	8. ぜんそく	62.7
8. 腹のでっぱり	19	9. 症状説明でき ない	61.9	9. 平熱 36 度未満	60.4	9. 症状説明でき ない	61.9
10. 懸垂ゼロ	18	10. ちょっとした ことで骨折	58.4	10. 転んで手が 出ない	55.7	10. 平熱 36 度未満	60.9

(表1のつづき)

## 〈中学校〉

(%)

1978 年		1990 年		1995 年		2000 年	
1. 朝礼でバタン	43	1. アレルギー	90.8	1. アレルギー	87.6	1. すぐ「疲れた」という	82.8
2. 背中ぐにゃ	37	2. すぐ「疲れた」という	83.8	2. 視力が低い	84.3	1. アレルギー	82.8
3. 朝からあくび	30	3. 視力が低い	78.1	3. すぐ「疲れた」という	71.9	3. 首, 肩のこり	77.0
3. アレルギー	30	4. 腹痛・頭痛を訴える	75.9	4. 腹痛・頭痛を訴える	71.1	3. 不登校	77.0
5. 肩こり	27	5. 不登校	74.6	5. 平熱 36 度未満	70.2	5. 腰 痛	76.6
6. 背筋がおかしい	26	6. 皮膚がカサカサ	72.8	5. 不登校	70.2	6. 視力が低い	73.0
6. なんでもない時骨折	26	7. 平熱 36 度未満	71.1	7. 首, 肩のこり	69.4	7. なんとなく保健室にくる	71.9
8. 貧 血	22	8. 首, 肩のこり	70.2	8. 腰 痛	66.9	8. 腹痛・頭痛を訴える	70.4
9. 懸垂ゼロ	21	9. 背中ぐにゃ	68.4	9. ちょっとしたこと骨折	63.6	9. 歯ならびが悪い	63.5
9. シュラッテル病	21	10. 症状説明できない	66.7	10. 歯ならびが悪い	59.5	10. 平熱 36 度未満	62.0

## 〈高等学校〉

(%)

1978 年		1990 年		1995 年		2000 年	
1. 腰 痛	40	1. アレルギー	83.0	1. アレルギー	88.8	1. アレルギー	89.2
2. 背中ぐにゃ	31	2. すぐ「疲れた」という	75.9	2. 腰 痛	80.4	2. すぐ「疲れた」という	82.0
2. 朝礼でバタン	31	3. 腹痛・頭痛を訴える	75.0	3. 腹痛・頭痛を訴える	76.6	3. 腹痛・頭痛を訴える	80.2
4. 肩こり	28	4. 視力が低い	67.0	4. すぐ「疲れた」という	74.8	4. 腰 痛	79.0
4. 貧 血	28	5. 腰 痛	66.5	5. 首, 肩のこり	73.8	5. 不登校	75.4
6. 朝からあくび	27	6. 不登校	64.2	6. 平熱 36 度未満	71.0	6. 首, 肩のこり	74.3
7. 神経性胃かいよう	25	7. 症状説明できない	62.3	6. 視力が低い	71.0	7. 平熱 36 度未満	71.3
8. なんでもない時骨折	21	8. 背中ぐにゃ	61.3	8. 不登校	68.2	8. 皮膚がカサカサ	67.1
8. アレルギー	21	9. 平熱 36 度未満	60.8	9. 皮膚がカサカサ	61.7	9. なんとなく保健室にくる	65.9
10. 脊椎異常	18	10. 首, 肩のこり	59.9	10. 症状説明できない	60.7	9. 症状説明できない	65.9
10. 授業中目がトロン	18						

## Q58 「保健室登校」

小	32 位	31.1%
中	18 位	49.8%
高	25 位	37.9%

## 4. 考 察

4.1 「からだのおかしさ」は、どの学校段階でもこれまで増加していると多く実感されていた事象の

方向に向かって変化が進行しており、これらのからだの変化をくい止めることに成功していないことが予想される。

4.2 1990, 1995 年調査では「最近増えている」と回答した割合のワースト・1 が「アレルギー」であったが、今回の調査ではワースト 1 と 2 がどの学校段階でも「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という」になり、少なくとも子どもたちは成長期を通し

てこの「アレルギー」と「すぐ“疲れた”」と思わせられるような「からだのおかしさ」を抱えながら生活しており、またそのような子がますます多くなっていることが予想される。

4.3 今回の調査で新たに加えた項目はどうであろうか。「保育・授業中じっとしていない」が「最近増えている」と回答した割合は、保育所・幼稚園で約6割、小学校で約8割、中学校で約6割、高校で5割と予想を上回る結果となり、小学校の現場から主に訴えられている授業が成り立たない状況をこのような実感としても確認することができたと考える。そして、これらの事象には、大脳新皮質・前頭葉の発達の遅れが予想される。

「なんとなく保健室にくる」は、中学・高校で「最近増えている」事象のワースト・10以内に入っており、子どもが安心できる場所を求めて保健室に集まってくる様子をうかがわせる。

また、「異常と思われるヤセ」については、小・中学校ならびに高校と学校段階が進むにつれて「最近増えている」という実感が増える傾向にあり、細身のからだが“美しい”とする誤ったからだの価値観（ダイエット志向）がもたらす食生活の乱れが年齢とともに進行していることを心配させ、からだについての正しい価値観を発達させるからの学習の必要性が示唆されていると考える。

さらに、「保健室登校」については、対象となった学校にそのような子どもがいる、いないがハッキリしている項目であり、実数に近い回答であると予想させる。それは、文部省が1996年度に調査した「保健室利用状況調査」で「保健室登校」の子どもがいる学校比率は、小学校37.1%、中学校58.1%、高校44.4%と中学校で最も高率を示しており、本調査の結果もこれとほぼ類似する数値であったからである。

4.4 われわれは、この実感調査の結果に導かれて「からだのおかしさ」の事実調査に取り組んできた。また、関連する分野、領域の研究者や専門家にも学び、積極的に討論をしてきた。「最近増えている」と多く実感されている「からだのおかしさ」の事象の実体、関連するからの器官・機能、体力を、現在われわれが予想していることとして表2に示した。

この表からわかるように、今の子どもたちの「か

らだのおかしさ」は、大脳新皮質、脳幹・脊髄系、視機能、筋力、骨格と多岐にわたり、からの「発達不全」と「不調」が実体であると考えた。

4.5 1979年以来、われわれの研究同人が「子どものからだと心・連絡会議」の事務局を担当し、毎年「子どものからだと心・全国研究会議」を開催してきた。また、1990年以降この討議資料として『子どものからだと心白書』を作成し、子どもの「からだのおかしさ」の実体に関する諸データを蒐集、分析してきた。これらの結果から、今回の調査結果について考察できることは次の諸点である。

1) 「子どものからだの調査'90」以降、「最近増えている」事象のワースト1あるいは2に常に挙げられてきた「アレルギー」については、1991年に厚生省が行った調査では医師からアレルギーと診断されている子はほぼ3割であった。ところが、その後に行われた日本学校保健会の「サーベイランス調査」（1994年、1996年）ではこれが4割から5割に近づいており、予想以上の事態となっている。遺伝的にアレルギー体質を有しているものの割合はおよそ3割とされていることを考えると、「アレルギー」が依然として増加していると実感されている背景には、「アレルギー」と見なされている「化学物質過敏症」の増加を予想しなくてはならないと考える。「アレルギー」の増加に対しては、学校における健康診断の項目に「アレルギー」を加えること、ここで診断された子に対するアレルゲンの検査体制を整えること、さらに有効な対策について情報の交流が必要であると考えられている。

また、「化学物質過敏症」の増加に対しては、それらの原因となる化学物質が特定できる検査を行うための「臨床環境医学センター」の設置と、これらの化学物質から隔離して自然治癒力を回復させる「子ども保養センター」が必要であると考えられている。

2) 今回の調査では「すぐ“疲れた”という」子が「最近増えている」と実感されている回答がワースト・1と2になっているが、「子どものからだと心・連絡会議」では子どもが熱中して何かに取り組んでいるときには“疲れた”とはいわないということが確認されており、子どもたちを熱中させる体験が生活の中で少なくなっていることを、この事象の背景として予想している。

表2 子どもの「からだのおかしさ」の事象と予想される実体、関連するからだの器官・機能、体力

問題が予想されるからだの器官・機能、体力																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
乳幼児用 Q NO.	事 象	予想される実体	大脳新皮質													大脳辺縁系		脳幹		脊髄		視機能			筋力			骨格																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
			前頭葉	運動系	認識記憶感覚	覚醒				自律神経系	ホルモン系	免疫系	反射神経																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

また、この熱中する体験の不足は大脳新皮質・前頭葉の活動の強さの発達も遅らせ、保育中や授業中にじっとしていない子、集中できない子を多くさせているのであろうと考えている。

3) 裸眼視力が不良なものが近年増加し続け、このことが無視しえない段階にきているとわれわれは考えているが、日本臨床環境医学会ではこの原因は「電磁波」と「有機リン系の殺虫剤」とであると予想して追究されている。

また、このような「視力不良」が増加しはじめた1974年から中学校における「不登校」が減少から増加に転じ、「視力不良」がさらに増加する1986年から小学校における「不登校」が増加に転じるという両者の増加の時点が奇妙に一致していることにわれわれは気がついている。「不登校」のために家の中にいることが「からだの不調」を増幅させることは十分考えられることである。われわれは、「不登校」を「心」の問題としてしまう前に「からだ」の問題として原因を追究する必要があると考える。

4) われわれは、大脳新皮質・前頭葉の活動の強さを発達させるためには、身体接触型の遊び（じゃれつき遊び）が有効であることを突き止めている。また、自律神経系の働きの発達には汗をかくくらいの身体活動と十分な睡眠が必要であらうと考えている。さらに、筋力については週1回の全力発揮で向上することを予想しており、このような「からだのおかしさ」の進行をくい止めるのは困難な事業とは考えていない。

しかし、現実にはこれらの進行をくい止められず事態は進行しており、このような事態について政府も自治体も国民も真剣に受け止めて検討することが必要であると考えている。

## 5. 結 論

5.1 子どもの「からだのおかしさ」についての保育と教育現場における実感を継続して調査を行ったが、子どもの「からだのおかしさ」は依然として多く実感されており、残念ながら子どものからだの変化の進行がくい止められないでいる状況が予想された。

5.2 各学校段階で「最近増えている」と多く実感されている「からだのおかしさ」の事象は多岐にわたっているが、「アレルギー」と「すぐ“疲れた”と

いう」に代表されるようにその実体が「からだの不調」と「からだの発達不全」としてまとめられるようになってきた。

5.3 今回新しく追加した項目については、「保育・授業中じっとしていない」と「なんとなく保健室にくる」が「最近増えている」という回答率のワースト・10内に入り、ここでも「からだの発達不全」と「からだの不調」の進行を予想させた。また、「保健室登校」についてはこれまでの事実調査とほぼ一致する結果であり、「保健室」の機能を一層充実させることが求められることを確認した。

5.4 現在の子どもの「からだのおかしさ」の進行をくい止めるためには、科学的な知見を基に対策を立てて取り組むとともに、現時点においてはいまだ対策の仮説が立たない事象についての研究を早急に進めていくことと、これらの成果についての情報交流がさらに求められる。

## 6. 提 言

本調査の結果から、以下の諸点を提言する。

6.1 子どもの「からだのおかしさ」がますます進行しており、「からだの不調」を抱えた子どもが少なからずいるということを正面から受け止めて、子どもを理解してほしい。

6.2 子どものからだには多面的に「発達不全」が進行しており、的確で有効な取り組みを探り当ててほしい。

6.3 最近子どもの生活が生き生きとしなくなってきたことが国際的な問題となっており、WHOは“Active Living”（生き生きとした生活）を提唱している。日本で子どもの「からだのおかしさ」の問題を解決し、この運動のモデル国として国際的に貢献しよう。

とりあえず、

- 1) テレビ・テレビゲーム漬けの生活から子どもを離し、多様な熱中体験をさせよう。
- 2) 一日一回、熱中して汗をかくくらいの外遊びをさせよう。
- 3) 早寝ができるような昼間の生活をつくり出そう。

6.4 各方面で進められている教育改革の論議においては、子どもの「からだ」の変化の問題を取り上げ、この変化をくい止める方向で教育政策を検討

してほしい。

**6.5 「子どもの権利条約」**をわが国で誠実に具体化させるために、子どもの「からだと心」の変化の問題を正確に捉え、子どもの権利の水準を向上させる各地の取り組みの成果を集約できる「国立子ども研究所」の設立を今こそ本気になって考えてほしい。

この提言は、1990年の調査以降、一貫して訴えているが、21世紀への子どもたちへの最善のプレ

ゼントとして考えてほしいことである。

#### 謝辞および付記

本調査にご協力いただいた保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

なお、本研究の一部は、日本体育大学学内奨励研究（B. 共同）の援助によって行われたものである。

## 《結果1》

子どものからだの調査2000  
保育所 (n=154)

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。

(数字は%)

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	53.2	37.0	3.2	5.2	0.6	0.6
2	保育中、目がトロンとしている子	33.1	46.1	3.2	14.3	1.3	1.9
3	保育中、じっとしていない子	60.4	31.8	3.9	3.2	0.6	0.0
4	自由時間の時など、ボーッとして何もしていない子	26.6	46.1	3.9	20.8	1.3	1.3
5	あまり汗をかかない子	18.2	56.5	3.2	15.6	5.2	1.3
6	すぐに「疲れた」という子	76.6	17.5	1.3	3.9	0.0	0.6

(数字は%)

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
7	転んで手が出ない子	51.9	35.1	3.2	6.5	3.2	0.0
8	まばたきがにぶい子	12.3	38.3	1.3	27.3	19.5	1.3
9	ボールが目にあたる子	10.4	44.8	1.9	31.8	10.4	0.6

(数字は%)

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	72.7	18.8	1.9	5.2	0.0	1.3
11	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	18.2	38.3	2.6	27.3	10.4	3.2
12	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対称的でない子	12.3	29.2	1.3	29.2	27.9	0.0
13	肩甲骨の左右の大きさにちがいがある子	3.9	24.0	0.6	40.9	28.6	1.9
14	脊柱異常とまではいなくても、背すじがおかしい子	16.9	26.0	0.6	44.2	11.0	1.3
15	つまずいてよく転ぶ子	58.4	33.8	3.9	3.2	0.6	0.0
16	内またのためによく転ぶ子	21.4	42.2	3.9	26.0	4.5	1.9
17	すぐ疲れて歩けなくなる子	53.2	27.9	3.9	13.0	1.3	0.6
18	まっすぐに走れない子	14.3	43.5	0.0	33.1	6.5	2.6
19	棒のぼりで足うらを使えない子	37.0	23.4	1.9	11.0	26.0	0.6
20	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	19.5	34.4	3.2	22.1	20.1	0.6

## 《結果1つづき》

(数字は%)

病気・けが・その他		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
21	平熱が36度未満の子	37.7	35.1	2.6	14.3	7.1	3.2
22	平熱が37度以上の子	13.0	42.2	7.1	24.0	9.7	3.9
23	奇声を発する子	40.3	31.2	3.2	23.4	0.0	1.9
24	指吸いの子	47.4	44.8	2.6	4.5	0.6	0.0
25	爪かみの子	26.0	53.2	4.5	13.6	1.3	1.3
26	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	36.4	37.7	3.2	21.4	0.6	0.6
27	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	64.3	23.4	3.9	5.2	1.3	1.9
28	自分で症状を説明できない子	27.3	48.7	4.5	12.3	5.2	1.9
29	首すじがはったり、肩がこっている子	7.1	16.9	0.6	41.6	32.5	1.3
30	歯ならびの悪い子	27.9	42.2	6.5	16.9	4.5	1.9
31	歯ぐきの色がおかしい子	9.1	25.3	3.9	46.1	13.6	1.9
32	聴力の弱い子	15.6	32.5	1.9	35.1	14.3	0.6
33	異常と思われる肥満の子	16.2	29.9	3.2	49.4	0.0	1.3
34	異常と思われる痩身（やせ）の子	5.8	30.5	0.6	61.7	0.6	0.6
35	鼻炎でプールに入れない子	8.4	24.0	0.6	61.7	3.2	1.9
36	鼻血が出やすい子	27.9	45.5	4.5	20.1	1.3	0.6
37	アレルギー性疾患の子	76.0	16.9	2.6	3.9	0.6	0.0
38	皮膚がカサカサの子	73.4	21.4	2.6	1.3	0.6	0.6
39	ぜんそくの子	61.0	30.5	2.6	4.5	0.6	0.6
40	胸郭異常の子	7.1	26.0	5.2	50.0	11.0	0.6
41	ちょっとしたことで骨折する子	22.1	26.6	1.3	40.9	8.4	0.6
42	骨折しても痛みを訴えない子	2.6	12.3	0.6	64.3	18.8	1.3
43	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	2.6	14.9	1.9	57.8	20.8	1.9
44	オスグッド・シュラッテル病 （膝の骨の異常発育で痛む）の子	1.3	4.5	2.6	74.7	16.9	0.0

## 《結果2》

子どものからだの調査2000  
幼稚園 (n=162)

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。

(数字は%)

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	47.5	38.9	2.5	11.1	0.0	0.0
2	保育中、目がトロンとしている子	24.1	48.8	2.5	21.0	3.1	0.6
3	保育中、じっとしていない子	59.3	29.0	4.9	4.3	1.2	1.2
4	自由時間の時など、ボーッとして何もしていない子	15.4	54.3	2.5	24.7	1.2	1.9
5	あまり汗をかかない子	17.3	51.2	2.5	15.4	13.0	0.6
6	すぐに「疲れた」という子	76.5	18.5	0.6	3.1	0.6	0.6

(数字は%)

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
7	転んで手が出ない子	53.7	32.1	2.5	9.3	2.5	0.0
8	まばたきがにぶい子	8.6	35.8	0.0	24.1	30.9	0.6
9	ボールが目にあたる子	11.7	44.4	2.5	29.6	11.1	0.6

(数字は%)

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、はおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	66.0	19.8	3.1	9.3	0.6	1.2
11	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	11.1	51.9	1.9	24.1	11.1	0.0
12	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対称的でない子	8.6	29.6	1.2	32.7	27.8	0.0
13	肩甲骨の左右の大きさにちがいがあ子	2.5	24.7	0.6	36.4	35.8	0.0
14	脊柱異常とまではいなくても、背すじがおかしい子	8.6	29.6	0.6	48.1	12.3	0.6
15	つまずいてよく転ぶ子	49.4	37.0	2.5	9.9	0.6	0.6
16	内またのためによく転ぶ子	10.5	42.6	1.2	32.7	12.3	0.6
17	すぐ疲れて歩けなくなる子	43.8	29.6	1.9	21.6	2.5	0.6
18	まっすぐに走れない子	10.5	46.3	1.2	32.1	8.6	1.2
19	棒のぼりで足うらを使えない子	40.1	27.2	2.5	3.7	25.3	1.2
20	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	24.7	40.1	1.2	19.8	14.2	0.0

## 《結果2つづき》

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
21	平熱が36度未満の子	31.5	30.2	0.0	8.6	27.2	2.5
22	平熱が37度以上の子	3.1	30.2	7.4	26.5	29.6	3.1
23	奇声を発する子	40.1	28.4	3.1	24.7	1.2	2.5
24	指吸いの子	26.5	59.9	4.9	8.0	0.6	0.0
25	爪かみの子	22.2	56.2	6.8	12.3	1.9	0.6
26	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	48.8	37.0	1.9	11.7	0.6	0.0
27	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	40.7	31.5	0.6	18.5	8.0	0.6
28	自分で症状を説明できない子	19.1	49.4	4.3	20.4	4.9	1.9
29	首すじがはったり、肩がこっている子	7.4	17.9	0.6	37.0	37.0	0.0
30	歯ならびの悪い子	27.8	45.7	6.8	15.4	4.3	0.0
31	歯ぐきの色がおかしい子	3.1	30.9	2.5	41.4	21.6	0.6
32	聴力の弱い子	11.7	39.5	1.2	31.5	14.8	1.2
33	異常と思われる肥満の子	9.3	43.2	3.1	43.8	0.6	0.0
34	異常と思われる痩身（やせ）の子	3.1	35.2	1.9	58.0	1.2	0.6
35	鼻炎でプールに入れない子	9.3	26.5	2.5	56.8	4.9	0.0
36	鼻血が出やすい子	25.9	51.2	1.9	17.3	2.5	1.2
37	アレルギー性疾患の子	82.7	14.2	0.6	1.9	0.6	0.0
38	皮膚がカサカサの子	69.1	23.5	1.9	3.7	1.9	0.0
39	ぜんそくの子	67.3	25.3	1.2	4.9	0.6	0.6
40	胸郭異常の子	5.6	32.1	0.0	43.8	17.9	0.6
41	ちょっとしたことで骨折する子	27.8	30.2	1.2	34.0	6.2	0.6
42	骨折しても痛みを訴えない子	3.7	19.1	1.2	55.6	19.1	1.2
43	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	7.4	20.4	0.6	37.0	34.6	0.0
44	オスグッド・シュラッテル病 （膝の骨の異常発育で痛む）の子	2.5	13.0	0.6	53.1	29.0	1.9

## 《結果3》

## 子どものからだの調査2000

小学校 (n=601)

以下の項目について，“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。

(数字は%)

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	44.9	44.1	1.2	1.2	7.0	1.7
2	授業中、目がトロンとしている子	39.6	42.6	1.7	3.2	12.0	1.0
3	授業中、居眠りをする子	24.3	39.1	1.7	20.0	13.6	1.3
4	授業中、じっとしていない子	77.5	13.8	0.8	4.2	3.0	0.7
5	保健室にねむりにくる子	28.3	41.4	2.8	26.0	1.0	0.5
6	なんとなく保健室にくる子	54.7	34.1	2.0	8.5	0.5	0.2
7	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	34.3	38.3	1.5	15.8	9.0	1.2
8	あまり汗をかかない子	31.1	33.6	1.6	7.3	25.8	1.2
9	すぐに「疲れた」という子	79.4	16.0	0.7	1.5	1.7	0.8

(数字は%)

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	54.4	37.8	1.2	4.7	1.7	0.3
11	まばたきがにぶい子	28.6	38.1	0.7	8.5	23.6	0.5
12	ボールが目にあたる子	54.7	34.1	1.2	5.7	4.0	0.3

(数字は%)

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	74.5	21.1	0.3	1.8	2.0	0.2
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	37.6	46.3	1.7	5.7	8.0	0.8
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対称的でない子	24.0	46.8	0.7	11.0	17.0	0.7
16	肩甲骨の左右の大きさにちがいがいる子	11.1	38.8	0.8	17.0	31.8	0.5
17	脊柱異常とまではいなくても、背すじがおかしい子	32.6	45.3	1.3	11.1	8.8	0.8
18	つまずいてよく転ぶ子	48.6	39.3	1.3	7.0	3.3	0.5
19	内またのためによく転ぶ子	10.3	38.1	2.3	22.6	26.0	0.7
20	すぐ疲れて歩けなくなる子	42.1	37.3	1.2	12.3	6.3	0.8
21	まっすぐに走れない子	18.1	40.6	1.0	16.1	23.0	1.2
22	棒のぼりで足うらを使えない子	33.3	22.3	0.7	3.3	39.4	1.0
23	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	30.8	29.0	0.8	8.0	30.4	1.0

## 《結果3つづき》

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
24	平熱が36度未満の子	60.9	29.5	0.3	1.8	7.0	0.5
25	平熱が37度以上の子	8.5	39.4	13.3	23.0	14.6	1.2
26	奇声を発する子	49.6	28.3	1.5	15.6	3.8	1.2
27	指吸いの子	17.6	43.8	7.0	20.6	9.8	1.2
28	爪かみの子	29.1	51.2	5.3	6.0	7.2	1.2
29	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	53.6	39.9	2.8	2.7	0.3	0.7
30	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	43.8	22.8	1.0	7.5	23.0	2.0
31	自分で症状を説明できない子	61.9	30.4	2.3	4.0	1.0	0.3
32	首すじがはったり、肩がこっている子	52.9	25.6	1.5	7.2	11.6	1.2
33	歯ならびの悪い子	73.2	22.0	2.7	0.5	1.0	0.7
34	歯ぐきの色がおかしい子	37.9	41.1	1.8	7.5	10.8	1.0
35	聴力の弱い子	9.7	64.1	3.3	17.3	5.0	0.7
36	異常と思われる肥満の子	41.9	40.6	2.7	13.0	1.0	0.8
37	異常と思われる痩身（やせ）の子	15.3	48.4	3.3	29.8	2.5	0.7
38	鼻炎でプールに入れない子	8.7	34.4	3.8	47.4	4.8	0.8
39	鼻血が出やすい子	35.6	54.7	1.7	5.7	1.7	0.7
40	アレルギー性疾患の子	82.2	15.6	0.7	0.7	0.3	0.5
41	皮膚がカサカサの子	67.4	28.1	1.3	1.0	1.3	0.8
42	ぜんそくの子	62.7	33.6	1.0	1.7	0.2	0.8
43	胸郭異常の子	4.7	52.4	5.8	26.5	9.2	1.5
44	ちょっとしたことで骨折する子	55.7	32.1	1.7	8.2	1.7	0.7
45	骨折しても痛みを訴えない子	23.3	25.3	1.0	38.6	11.0	0.8
46	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	6.3	23.6	1.0	35.8	32.1	1.2
47	オスグッド・シュラッテル病 (膝の骨の異常発育で痛む)の子	19.8	36.3	1.8	34.3	7.0	0.8
48	朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	11.1	54.9	10.3	19.1	3.5	1.0
49	視力の低い子	71.7	25.5	0.5	1.3	0.3	0.7
50	左右の視力がひどくアンバランスな子	46.6	42.9	0.5	7.5	1.8	0.7
51	貧血の子	9.3	44.8	3.2	24.8	17.3	0.7
52	高血圧や動脈硬化の子	5.3	14.1	0.3	40.6	38.6	1.0
53	心臓病の子	9.3	60.4	2.3	21.1	6.0	0.8
54	糖尿病の子	4.0	17.3	0.7	67.1	9.5	1.5
55	神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	6.3	14.8	1.2	63.9	12.5	1.3
56	脚気の子	0.0	8.3	1.3	77.0	12.5	0.8
57	腰痛の子	26.0	26.8	0.3	38.1	8.0	0.8
58	不登校（登校拒否を含む）の子	45.9	19.8	1.8	31.4	0.2	0.8
59	保健室登校の子	31.1	14.8	1.0	52.2	0.2	0.7

## 《結果4》

子どものからだの調査2000  
中学校 (n=274)

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。

(数字は%)

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	36.1	53.3	1.1	1.1	7.3	1.1
2	授業中、目がトロンとしている子	38.3	42.3	1.8	0.4	16.1	1.1
3	授業中、居眠りをする子	52.6	33.6	1.8	2.9	8.4	0.7
4	授業中、じっとしていない子	56.2	23.7	3.3	6.6	9.5	0.7
5	保健室にねむりにくる子	43.1	40.1	4.4	11.7	0.7	0.0
6	なんとなく保健室にくる子	71.9	25.9	1.5	0.4	0.4	0.0
7	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	32.5	39.1	1.5	6.2	20.1	0.7
8	あまり汗をかかない子	23.7	35.0	1.1	5.1	34.3	0.7
9	すぐに「疲れた」という子	82.8	14.6	0.4	0.0	2.2	0.0

(数字は%)

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	29.9	46.7	2.6	8.4	12.0	0.4
11	まばたきがにぶい子	12.4	41.6	1.5	8.0	36.1	0.4
12	ボールが目にあたる子	39.8	43.8	1.5	8.4	6.6	0.0

(数字は%)

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	61.3	30.7	0.4	1.5	4.7	1.5
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	26.3	44.5	2.2	7.3	18.2	1.5
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対称的でない子	27.7	43.1	2.6	6.6	19.3	0.7
16	肩甲骨の左右の大きさにちがいがある子	11.7	38.3	1.5	12.4	35.4	0.7
17	脊柱異常とまではいなくても、背すじがおかしい子	35.8	45.3	2.2	5.8	9.9	1.1
18	つまずいてよく転ぶ子	20.4	47.4	2.2	17.2	12.4	0.4
19	内またのためによく転ぶ子	5.8	27.0	1.8	30.7	34.7	0.0
20	すぐ疲れて歩けなくなる子	26.6	34.3	1.1	20.8	17.2	0.0
21	まっすぐに走れない子	9.5	25.5	1.1	29.9	33.2	0.7
22	棒のぼりで足うらを使えない子	8.8	8.4	0.0	2.6	77.4	2.9
23	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	24.5	19.3	0.0	11.3	43.4	1.5

## 《結果4つづき》

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
24	平熱が36度未満の子	62.0	31.8	0.4	0.7	4.7	0.4
25	平熱が37度以上の子	14.6	38.3	13.1	20.1	13.1	0.7
26	奇声を発する子	40.9	21.5	1.5	25.9	9.5	0.7
27	指吸いの子	2.9	16.4	1.8	52.6	25.2	1.1
28	爪かみの子	17.5	40.5	3.3	16.8	20.4	1.5
29	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	70.4	27.7	0.7	0.0	0.7	0.4
30	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	23.7	20.1	0.4	11.3	43.8	0.7
31	自分で症状を説明できない子	54.4	38.0	1.1	4.0	1.8	0.7
32	首すじがはったり、肩がこっている子	77.0	15.7	0.4	2.6	4.4	0.0
33	歯ならびの悪い子	63.5	28.1	4.4	1.1	2.9	0.0
34	歯ぐきの色がおかしい子	42.7	35.0	1.8	8.0	12.0	0.4
35	聴力の弱い子	10.6	64.2	4.4	12.4	8.0	0.4
36	異常と思われる肥満の子	29.6	43.8	8.0	15.3	2.9	0.4
37	異常と思われる痩身（やせ）の子	28.1	41.6	2.6	25.5	2.2	0.0
38	鼻炎でプールに入れない子	13.1	33.6	4.4	32.5	14.6	1.8
39	鼻血が出やすい子	27.4	62.0	2.9	5.1	2.6	0.0
40	アレルギー性疾患の子	82.8	16.4	0.4	0.0	0.4	0.0
41	皮膚がカサカサの子	60.9	31.4	3.6	2.2	1.8	0.0
42	ぜんそくの子	46.7	48.9	2.2	1.5	0.7	0.0
43	胸郭異常の子	5.5	58.0	8.4	21.2	6.9	0.0
44	ちょっとしたことで骨折する子	57.7	33.6	2.2	4.4	1.8	0.4
45	骨折しても痛みを訴えない子	20.4	32.1	1.1	32.8	12.8	0.7
46	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	5.1	24.5	2.2	29.9	38.0	0.4
47	オスグッド・シュラッテル病 （膝の骨の異常発育で痛む）の子	35.8	50.7	3.6	6.9	2.6	0.4
48	朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	15.7	56.9	9.1	13.5	4.7	0.0
49	視力の低い子	73.0	24.8	0.4	1.1	0.7	0.0
50	左右の視力がひどくアンバランスな子	55.1	38.7	1.1	2.6	2.6	0.0
51	貧血の子	30.3	53.6	3.3	4.7	7.7	0.4
52	高血圧や動脈硬化の子	10.2	22.3	0.0	27.4	40.1	0.0
53	心臓病の子	9.1	68.2	3.3	14.2	4.7	0.4
54	糖尿病の子	9.5	32.5	0.0	50.0	7.3	0.7
55	神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	23.4	27.7	1.5	35.8	11.7	0.0
56	脚気の子	0.7	12.4	1.8	66.4	18.6	0.0
57	腰痛の子	76.6	19.0	0.4	1.8	1.5	0.7
58	不登校（登校拒否を含む）の子	77.0	13.9	1.5	7.3	0.4	0.0
59	保健室登校の子	49.6	15.7	1.8	31.4	0.7	0.7

## 《結果5》

子どものからだの調査2000  
高等学校 (n=167)

以下の項目について，“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。

(数字は%)

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	45.5	37.1	0.0	3.0	13.8	0.6
2	授業中、目がトロンとしている子	41.3	31.7	0.6	1.8	24.0	0.6
3	授業中、居眠りをする子	56.3	27.5	1.8	0.0	13.8	0.6
4	授業中、じっとしていない子	49.1	25.1	3.0	5.4	16.2	1.2
5	保健室にねむりにくる子	50.3	37.7	4.8	4.8	1.2	1.2
6	なんとなく保健室にくる子	65.9	29.3	1.2	1.8	1.2	0.6
7	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	30.5	35.3	0.6	3.0	29.3	1.2
8	あまり汗をかかない子	29.9	28.1	1.2	1.8	37.1	1.8
9	すぐに「疲れた」という子	82.0	15.0	0.0	0.6	2.4	0.0

(数字は%)

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	29.3	37.7	0.0	9.0	22.8	1.2
11	まばたきがにぶい子	10.2	28.7	0.0	6.6	52.7	1.8
12	ボールが目にあたる子	32.9	41.3	0.6	12.0	12.0	1.2

(数字は%)

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	62.9	23.4	0.6	3.0	9.6	0.6
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっばっている子	19.2	28.1	1.2	12.0	39.5	0.0
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対称的でない子	18.6	39.5	0.6	4.8	34.7	1.8
16	肩甲骨の左右の大きさにちがいがある子	7.8	32.3	0.0	7.2	49.7	3.0
17	脊柱異常とまではいかななくても、背すじがおかしい子	35.3	39.5	1.2	3.6	19.8	0.6
18	つまずいてよく転ぶ子	21.6	45.5	0.6	15.0	15.0	2.4
19	内またのためによく転ぶ子	3.0	26.3	0.6	26.3	41.9	1.8
20	すぐ疲れて歩けなくなる子	28.1	26.3	0.0	16.2	28.1	1.2
21	まっすぐに走れない子	5.4	21.6	0.0	21.6	49.7	1.8
22	棒のぼりで足うらを使えない子	3.6	6.0	0.0	1.8	84.4	4.2
23	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	14.4	17.4	0.6	9.6	55.1	3.0

## 《結果5つづき》

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
24	平熱が36度未満の子	71.3	21.6	0.0	0.6	4.8	1.8
25	平熱が37度以上の子	13.2	32.9	7.8	28.7	16.8	0.6
26	奇声を発する子	26.9	21.6	2.4	33.5	13.8	1.8
27	指吸いの子	1.2	7.8	0.6	58.1	31.1	1.2
28	爪かみの子	9.6	25.1	3.6	28.1	32.3	1.2
29	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	80.2	18.6	0.6	0.6	0.0	0.0
30	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	18.0	15.0	0.0	6.0	58.7	2.4
31	自分で症状を説明できない子	65.9	26.9	0.0	5.4	1.8	0.0
32	首すじがはったり、肩がこっている子	74.3	19.8	1.2	0.6	4.2	0.0
33	歯ならびの悪い子	54.5	33.5	7.2	0.6	4.2	0.0
34	歯ぐきの色がおかしい子	38.9	36.5	3.0	3.6	17.4	0.6
35	聴力の弱い子	19.8	67.1	2.4	4.2	5.4	1.2
36	異常と思われる肥満の子	29.3	52.1	7.8	9.0	1.8	0.0
37	異常と思われる痩身（やせ）の子	46.7	41.9	0.6	8.4	2.4	0.0
38	鼻炎でプールに入れない子	10.2	26.9	0.6	19.2	40.1	3.0
39	鼻血が出やすい子	18.0	69.5	3.0	4.2	5.4	0.0
40	アレルギー性疾患の子	89.2	10.2	0.0	0.0	0.6	0.0
41	皮膚がカサカサの子	67.1	29.9	0.0	1.2	1.8	0.0
42	ぜんそくの子	64.1	32.3	0.6	0.0	2.4	0.6
43	胸郭異常の子	10.8	59.9	6.0	10.2	12.6	0.6
44	ちょっとしたことで骨折する子	50.3	37.7	1.2	6.0	4.8	0.0
45	骨折しても痛みを訴えない子	11.4	25.7	0.0	46.7	15.6	0.6
46	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	4.2	18.0	0.6	24.6	52.1	0.6
47	オスグッド・シュラッテル病 （膝の骨の異常発育で痛む）の子	5.4	52.1	5.4	22.8	14.4	0.0
48	朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	21.0	53.3	4.2	7.8	12.6	1.2
49	視力の低い子	65.3	32.3	0.0	0.0	2.4	0.0
50	左右の視力がひどくアンバランスな子	41.3	51.5	1.2	2.4	3.6	0.0
51	貧血の子	36.5	53.3	3.6	0.0	6.0	0.6
52	高血圧や動脈硬化の子	15.6	31.1	1.2	13.2	38.3	0.6
53	心臓病の子	10.8	81.4	1.8	2.4	3.6	0.0
54	糖尿病の子	12.6	53.3	1.2	28.1	4.8	0.0
55	神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	50.3	35.3	1.2	8.4	4.8	0.0
56	脚気の子	0.0	13.2	0.0	57.5	28.7	0.6
57	腰痛の子	79.0	17.4	0.6	0.0	2.4	0.6
58	不登校（登校拒否を含む）の子	75.4	19.8	1.2	2.4	1.2	0.0
59	保健室登校の子	38.9	24.6	1.2	31.7	3.0	0.6